

平成16年3月(2004年) No.459

今年の撮影会は「沼島」に決まる

— 海に入るダンジリが見もの —

毎年恒例の一泊撮影会を楽しみにしている方も多いと思いますが、今年
 は淡路島南淡町の沖に浮かぶ小さな島「沼島」(ぬしま)に決定されました。
 個人ではなかなか行きにくい交通不便な小さな島で、普段は約800人
 ほどの小さな漁村ですが、毎年5月3日～4日の八幡神社の祭りには島帰
 り親類縁者等で賑わうということです。島には2台のふとん太鼓と3基の
 だんじりがあり、だんじりが海に入ることが特徴です。みこしが海に入る
 祭りはよく聞きますが、人を乗せただんじりが海に入るのは珍しいもので
 す。

島には一軒の旅館があるだけで、ほかは民宿さえ無いようです。先日、
 関、吉岡、合原の3人の企画担当世話役が現地を訪ねてきて宿の手配や交
 通手段や時間等を調べてきました。詳しくは別紙案内をご覧ください。3月
 末までに同封のハガキにてご返事くださるようお願いいたします。旅館には一
 応15名程度で予約してありますが、祭りではスチール写真撮影一行や観
 光客の宿泊も予想されるため、早めに人数を確認し、部屋を確保しておく
 必要があります。

島の人たちは大変素朴で親切な人が多いので撮影のときも、インタ
 ビューなどを試みたり、人物やだんじり等、近くでアップをねらうこと
 は容易だと思われます。また海に入っただんじりも岸から十分アップで撮
 影できそうです。5月初旬は天候も安定していて雨の確率は低いと思われ
 ますが、少々の雨でも祭りはやるようです。

沼島へは5月3日朝8時45分の快速に乗り、JR舞子で9時25分発の
 淡路高速バスに乗り福良下車10時39分、そこからタクシー相乗りで土生
 (みぶ)の港へ、そこから11時55分発連絡船にて約10分で沼島到着で
 す。

3月例会のお知らせ

3月例会は27日(第4土曜日)18時より、難波市民学習セ
 ンター(JR難波駅上OCATビル4階)にて開催します。

大映写で迫力十分な楽しいひとときをみんなで過ごしましょう。

■故 安居良枝さんを偲ぶ映写会の企画

良枝さんが亡くなられて早や一年近くになります。いい作品をたくさん創作されて私たちを楽しませて頂いた良枝さんを偲んで、公開映写会を世話人たちが集まって企画しています。一応7月第1日曜(4日)を予定していますが、詳細が決まりましたらお知らせします。

■コンテスト入賞おめでとうございます

第15回丹波篠山ビデオ大賞コンテスト
NHK神戸放送局長賞

仏像彫刻 有村 博さん

■日本を縦断する映像発表会の会場を

大阪市立中央図書館のホールへ移転

従来、日本アマチュア映像作家連盟の日本を縦断する映像発表会は、阿倍野市民学習センターで開催していましたが、会場が手狭で見にくいとの指摘もあり、このほど中央図書館にお願いして共催という形で図書館の施設を利用して頂くことになりました。次回第15回の発表会は6月13日の日曜日、大阪市立中央図書館で開催します。

■OVCの公開映写会は4月3日開催

第9回OVCビデオフェスティバルは4月3日土曜日13時30分より、地下鉄の長堀橋駅より歩いて5分ほどの大阪市立中央会館にて開催されます。中央会館での開催は初めてで少々地理的には判りにくいかも知れませんが、行ってみれば以外に近いところです。OMC会員でもある那須、森、西村、合原、吉岡、関、安居、上総、紙本、有村氏らの作品も上映されます。どうぞお越しください。

2月例会レポート

厳しい寒波は見られなくなりましたが、まだ若干寒さが残る今日この頃です。しかし本格的な春も間近かで、ビデオ大好き人間の季節到来です。

2月例会は28日土曜の夜、難波市民学習センターにて開催されました。今月より大型ロッカーが使えるようになり、自前のDVデッキ、プロジェクター、スピーカーを使い、会場備え付けの大型スクリーン一杯に投影して作品上映を心ゆくまで楽しみました。プロジェクターの性能も良いよう

で、梅田での借り物のプロジェクターとは比べものにならない発色と鮮明な映像でやはり自前の機械は良いものだ実感しました。今月は見学者1名を加えて総勢33名の出席者と19本の作品が出品され、うれしい悲鳴が上がりましたが、とうとうラスト2本が時間切れで来月回しとなってしまいました。

また、昨年の新年会ご出席依頼1年以上もお顔をお見せにならなかった田中正文さんがひょこり会場にお越しになられ、80歳の太台を既に越えられ、今なお現役で小型飛行機を操縦されている田中さんのお元気に接し勇気づけられました。

今月の司会是有村さん、記録、合原さん、デッキ係、増池さんと河合さん、受付兼照明係、渡辺さんと宮崎さんの担当で会を進行しました。

■出席：有村、今井、江村、岡本、上総、奥、金子、紙本、河合、小竹、合原、進藤、関、玉井、田中、中尾、那須、西村、藤原、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森下、森田、安居、山本、吉岡、渡辺、岩井の32氏に見学者1名を含めて33名。

■上映(今月の講評は合原会長です)

1. 冬・嵐山・岩田山

増池 茂

8分15秒

嵐山の奥に岩田山というお猿さんの一杯いる小高い山があり、スチール写真の撮影会などをよくやっています。作者はそこへビデオカメラを据えて撮って来られました。人馴れした猿のアップなど、よく表情をとらえられています。観光客もいて雰囲気は伝えますが、この作品の場合、猿だけでまとめた方がよかったのでは、との声がありました。猿のバックに人がチラチラ入るだけのカットなどはやはり気になるようです。再編集されてスッキリさせては如何がでしょうか。

2. 仏陀の国・スリランカ

河合源七郎さん

12分17秒

元セイロン島と呼ばれていたスリランカは、珍しい動物達の住む原生林のほか、仏教の栄えた島で、その遺跡が多く残されています。その数々の仏教遺跡をはじめ、シギリヤロックの巨岩に描かれた壁画など、

貴重な遺産が丁寧な解説と共に紹介されています。なんでも仏教美術のツアーに同行されて撮影された由で、単なる観光ツアーでないところに、深みのある作品に仕上がった理由のような気がします。いずれにしてもよく調べてまとめられた大作です。

3. 麗巖東照宮

森 保信 6分23秒

墨絵のような山と湖畔の風景が朝もやの中に展開するトップシーンは大変印象的です。そこから林道を経て日光東照宮の境内に入ります。朝、まだ観光客の居ないうちに、静かな東照宮の様子をカメラは捉えます。権力、財力にモノを云わせて造営された東照宮の色彩豊かな彫り物等の遺構に、あらためて徳川家康の大きさを思い知らされました。しっかりした三脚を据え、がっちり撮影された重厚な作品に仕上がっていました。

4. 梅小路のC612 (ワイド作品)

前田茂夫さん 8分0秒

当初、ハイビジョンの「C622 の魅力」の上映の筈だったのですが、ノートパソコンからの映像出力に手間取り、この日は出品作品も特に多かったので、急遽ワイド作品に切替えて上映した作品。先月はハイビジョンが上映出来たのに機材がカメラからPCに変わったために不慣れで、今回は映像が出なかったのは残念でした。次回は休憩後の最初に予定した方がよいようです。作品は梅小路構内で動く重連のC61型のSLを撮影されたもので、あのSLの勇姿が、狭い構内だけで十分な活路の場になっていないのが残念。大自然の中を思い切って走らせてみたい思いにかられました。

5. 神様はだんじりが好き

安居利次さん 7分10秒

安居さんならではの自由な発想でまとめられた「だんじり祭り」に伴うお話。岸和田のだんじり祭りの作品も、つくり様によってはこんな見方も出来よう、といった作品で面白く拝見できました。最後に、この話はフィクションです、と字幕がでたのはご愛嬌でした。

5. 堺・高石消防出初式

奥 宏さん 6分35秒

堺・金岡公園で行われた出初式の様子を撮った記録です。ナレーションにパソコンで声の出るソフトを使ってみた、とのコメントがありましたが、気づかなかったくらいに自然体で入っていて感心しました。これなら、ナレーターに頼まなくてもパソコンで言葉を打ち込めば、しゃべってくれるという大変結構な時代が来るかもしれません。そういう意味で貴重な実験作でした。

7. 川下り

森田光春さん 9分45秒

普通なら「川下り」といえば日本ラインとか熊野とか保津狭下りとかをパッと連想しますが、さすがに森田さんのはスケールが違います。タイ北部に流れるクローン川の川下りで、急流をゴムボートや筏で豪快に下っていきます。兩岸はうっそうとした原生林が覆い茂っていて今にもワニでも出そうな雰囲気です。映画のシーンのような異国情緒たっぷりの川下りの様子でした。

8. クリスマスイブ'03

有村 博さん 6分30秒

ムードは一変して夜のクリスマスイブの華やかな光のある情景が、道頓堀や中之島公園一带に展開します。中之島図書館の動く映像は幻想的な夜のムードを演出し、BGMと共に雰囲気を盛り上げていました。

今年のクリスマスには私もカメラをかついで行って見たくくなりました。

9. 平家物語

紙本 勝 8分30秒

紙本さんには珍しい歌謡映画のジャンル。一口に歌謡映画と言ってもこちらは、三波春夫の浪曲入りの8分半という長編。

それにしてもよくまあ、いろんあカットをひろわれて来られたものと感心しました。一部NHK資料映像も混じっていましたが、平家物語にまつわる知識がひとつ増えました。肩の凝らない楽しい作品でした。

10. 関空に舞う

今井羨美さん 8分30秒

'95年に撮影したものをこの程まとめられた由。DVではない為か色が少々くすんで見えました。関空の展望台から撮ったもので、巨大な飛行機が次々に飛び立つ様子は迫力がありました。ラストの空の彼方

に飛び去って行くロングカットは印象的でした。

11. 水鳥の詩 (ワイド作品)

進藤信男さん 6分30秒

長浜の北方、湖北地方に飛来してきた、コハクチョウの群れを撮られたもの。湖北にこんなたくさんのコハクチョウがやってくるとは初めて知りました。鳥たちを可成りの近くから望遠で撮られています。群翔の様子をダイナミックに描かれて良かったと思います。湖に舞い降りるコハクチョウの姿がラスト近くにありましたが、これをトップシーンに持ってもらえた方がよかったように思いました。

12. わが友ラビソン・シャキヤさん一家

西村光雄さん 8分30秒

西村さんのネパール紀行の一作品。日本で東芝の下請工場で川崎に5年住んでいたというシャキヤさんを中心にパタン市の様子が描かれています。普通の観光客では絶対に撮れないテーマで作者ならではの作品です。トップシーンの年賀メールから、ボンと現地での取材映像に移ったのは、何かその間にひと工夫欲しかったように思いました。それにしてもDVカメラやアドビの編集ソフトの入ったパソコン等、現地のシャキヤさんの映像づくり、次回のテーマになりそうです。

13. 棚田のハニ族

山本正夢さん 5分30秒

中国雲南省の棚田は世界遺産にも登録されようという素晴らしい棚田です。日本からもスチール写真のツアーがよく行くところで、私の妻もツアーに参加して棚田を撮ってきました。山本さんは棚田とその近くのハニ族の村を訪れて現地の人々の生活ぶりや子供たちが歌を唄いながら遊んでいる様子などを撮影されていて日本のわらべ歌を歌う子供たちを連想しました。

幻想的な棚田風景といい、村人たちの生活状況といい、山本さんならではの作品でしたが、棚田のカットと村人たちとのカットに繋がりのあるカットが欲しいなと思ったのですが、少し欲張りでしょうか。BGMの選曲はよくマッチしてよかったと思います。今年の OMC 映像フェスティバル作品

候補が早や出たといった感じです。

14. 炎の衝 (しょう)

関 剛さん 7分00秒

那智熊野大社の火祭りを作者をはじめ吉岡、紙本、森の4人の方が分担して撮影されたものを関さんらしいカットつなぎでうまくまとめられた作品。ほかの3人の作品はすでに見せて貰い、それぞれ立派な作品に仕上がっていましたが、さすがに関作品は編集カットのつなぎ方が違います。同じ映像素材でも編集によってこうも違うものかという見本のような作品です。いろんな人が違うカメラで撮ったので色合わせにパソコン上で苦労された由。ラストカットの林の中を煙たなびくシーンは高野山撮影会で撮ったカットだった由。

15. ニューゼaland紀行

那須典彦さん 9分40秒

クライストチャーチ編の前編だそうで、イギリスをモデルにして作り上げたというクライストチャーチの美しい街や公園の様子が描かれています。10年程前に私も行きましたが変わらぬ美しさに思い出もあらたにしました。三脚をガッチリ据えて落ち着いた画像は安心して拝見できました。後編はどんなところが興味が湧きますが、前後編合わせて10分位に良いところ取りでまとめた作品も、内容が濃くなって良いと思いますが如何でしょうか。

16. 蝶の温室 宮崎紀代子さん 3分50秒

宮崎さん久々の作品。伊丹の昆虫館で撮影されたものです。三脚はダメという室内で安定して蝶や花を近くで撮られていて、宮崎さんの上達ぶりを拝見できました。温室でのカメラの結露などの問題もうまく切り抜けたようです。

17. 終い弘法 江村一郎さん 6分05秒

江村さんらしいカットつなぎの妙を感じさせる作品が戻ってきたといった作品で、京都東寺の終い弘法の雰囲気をよく伝えていますが、ラストシーンの電車からのカットは無い方がよいように思いました。

このほか上総さんの「モール運河」と岡本さんの「天狗と虚無僧(こむそう)」は残念にも時間切れで来月回しとなりました。